

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2-(2)	ホームでのケアへの取り組みや活動内容を積極的に地域に発信し、双方向の交流を活発にすることが期待される。	地域の方(ボランティアの皆様等)をお招きするだけでなく、地域資源の活用を行い、ホーム側から外出する機会を作り、施設を更に知って頂き交流出来る場所作りに努めていきたい。	・清掃など地域活動への参加。 (年間行事の把握・参加したい意向説明)	隔月
				・地域を対象とした認知症サポーター養成講座の開催。(地域の方と施設・職員との接点:地域の年間計画に入れて頂く)	年2回以上
				・広報誌、またその他の手段でホームの活動内容を知って頂くための発信や施設見学の案内を行う。	年4回以上
				・地域の消防団との避難訓練	年1回
2	7-(6)	ストレスや疲労がケアに影響を与えないよう、管理者を含めた職員全員のストレスを定期的に確認、軽減するための仕組みを整備することが望まれる。	職員のストレスを理解(把握)できる仕組みを作る。 ストレスの度合いを確認するとともに、主に職場環境面からストレス軽減に努めていく。	・職員ストレスの調査と分析をおこない、職員と一緒に課題解決を目指す。 (職員の不平不満に対する改善策とその対応について)	4ヶ月毎
				・休憩室の環境整備。…テーブル、椅子の設置だけでなく、くつろげる環境づくりを目指す。	3ヶ月
				・ストレスが背景となる不適切ケアと高齢者虐待についての研修実施。	2ヶ月
				・法人本体によるストレスチェック制度の導入を検討(中)	H28.12末までに
3	45-(21)	入居者は年数がたつにつれ状態変化が考えられ、将来重度化した時に対応できるよう、介護力の向上や設備面の検討が望まれる。	重度者に対する介助方法・福祉用具の習得。看取り実施に向けて医療面の学習の機会を持ち、医業職との連携が図れる。	・重度者に対する介助方法の習得(福祉用具の理解と介護職に負担がない介助方法の実習会を行う。)	7ヶ月
				・「介護職における喀痰吸引等に係る研修」や重度化対応に関する外部研修の参加。 (職員の中から参加者を選抜。)	12ヶ月
				・訪問看護師による看取り勉強会の開催。	年2回
				・介護職は医療面、介護面の問題点を拾いだし、毎月、勉強会を行う事で知識、技術力を養う。	毎月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。